

紙で取り組むSDGs

京都紙商事様開催の
「紙で取り組むSDGs展示会」を見学してきました。



日々、生活の中に浸透し始めたSDGs

「持続可能な開発目標」をキーワードに環境に配慮した森林認証紙や再生紙、非木材紙の情報を身の回りにある様々な製品から最新のトレンドまでを製品・試作サンプルにてご紹介し用途提案からビジネスヒントを見つけて頂く参考になればと考えられています。

さまざまなエコロジーペーパー 【非木材紙】

非木材紙とは針葉樹および広葉樹以外の食物繊維を原料にした紙のことです。

さとうきびの残渣であるバガスは一部はボイラーでの燃料となり砂糖の製造の動力源となりますが、残りは廃棄されています。この余剰バガスなどを紙の原料として利用し、ハガキや便箋、卓上カレンダー、パンフレットの表紙、包装紙などの幅広い用途に採用されています。



プラスチックを削減したエコな市販のお菓子

こちらのお菓子のパッケージは紙でできていて内側はコーティングされています。

その他、工夫されている点はパッケージをスリム化することでプラスチック使用量を減らすだけでなく、輸送コストの削減で二酸化炭素排出量も削減できる想定とされている、脱プラスチック エコ包装のお菓子です。パッケージサイズを変えることで、エコな配慮を2方面から実現化しています。



最後に

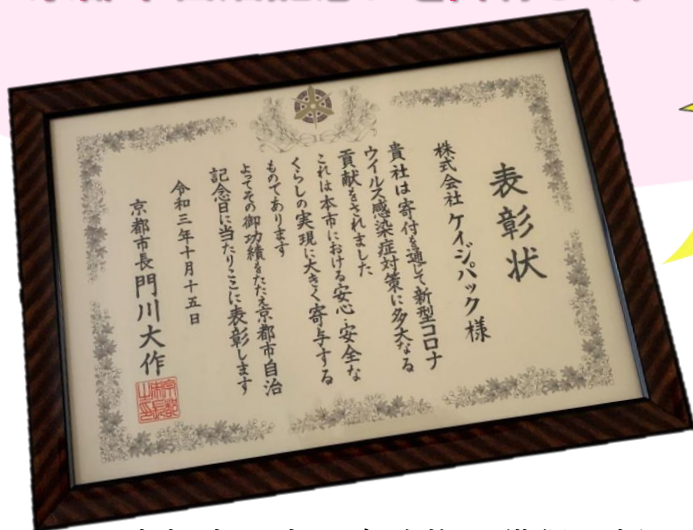
プラスチックから紙へ変更していくのはもちろん地球環境にやさしいということなので素晴らしいことです。

ただ、紙のパッケージへの変更は意外にコストが上がってしまうのが現状です。ですが、地球環境を考えるとやらなければいけないこととして、SDGs活動に取り組む。このような動きが少しずつ活発になりつつあります。

今回、取材にご協力頂きました京都紙商事の皆様、ご多忙のところ有難うございました。



京都市自治記念日を御存じですか？



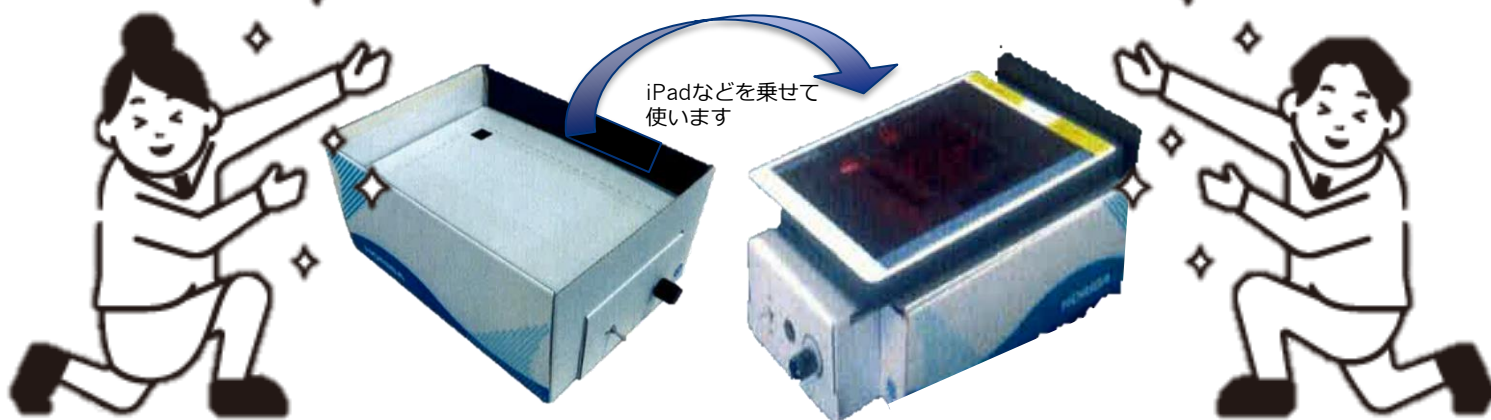
京都市が誕生したのは明治22年。
当時は自治権を制約され京都府直轄の下で市政がスタートしました。
そして明治31年10月15日、京都市民自らの手によって市長を選任し市役所は開庁されました。

京都市が真の自治権を獲得し新たな時代を切り拓いていくこととなったこの日を「京都市自治記念日」として、市政の推進に多大な貢献をした個人、団体に表彰状や感謝状を贈呈されています。

令和3年度のこの記念日に当社は、コロナ対策関連商品の製造および販売の実績が認められ「新型コロナウイルス感染症対策支え合い特別表彰」を頂きました。
今後も、自社の商品で皆様に貢献できるような物づくりに邁進してまいります！

海洋プラスチック問題を身近に学べる！

近年、子供が環境問題を学習する機会が増えてきましたが、教科書や映像などでの資料が多く実際に触れることができず理解するには難しい現状です。そこで「ぷらウォッチ」という簡易学習キットが開発されました。
ぷらウォッチとは…



近隣の浜辺から採取した砂を用いて、その中に含まれるマイクロプラスチック(*)を見た目にも分かりやすくした教材用キットです。

株式会社堀場製作所×株式会社ケイジバック

砂の中に含まれるマイクロプラスチックを染色して、光で照射することで染色したマイクロプラスチックだけを発光させます。
それをスマホやiPadなどのカメラ機能を使って観測できる画期的なキットです。

未来ある子供たちが少しでも環境問題に興味を持ち、海洋生物絶滅の危機だけではなく人類の健康影響についても考えるきっかけとなればいいですね。



※マイクロプラスチックとは…

海に流出したプラスチックが紫外線や波によって岩に繰り返し打ち付けられ、細かく砕かれ5mm以下にまで小さくなったかけらです。

これをエサと勘違いし誤飲した生物、さらにはそれを捕食する生物の生態系を脅かしているのです。



K P T I M E S はびわ湖の森の木になる紙を使用しています

